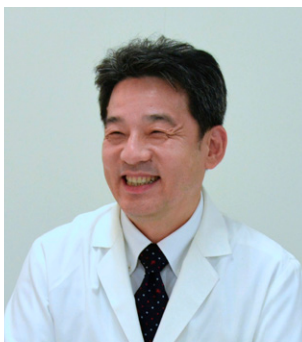


安全文化を育て、信頼される病院へ

医療安全・外部評価担当 副病院長 鈴木 純

医療安全・外部評価担当副病院長として、患者さんが安心して医療を受けられ、職員が安全に力を発揮できる病院づくりに取り組みます。救急患者や院内急変の増加に対しては、救急外来と迅速対応体制を両輪として、情報共有、初期対応、急変の早期把握をより確実なものにしていきたいと思います。また、外部機関による第三者評価を単なる審査対応ではなく、日々の診療や業務を見直す機会と捉え、患者さんの権利、診療記録、薬剤・医療機器の安全、職員教育、療養環境など幅広い課題について部門横断で改善につなげます。現場の声と客観的な評価を結びつけ、改善を継続する、信頼される病院を目指します。



PROFILE

すずきじゅん◎1996年 本学医学部卒業。2024年 医療安全管理部長、副病院長に就任。専門は循環器内科。趣味はアウトドア。好きな映画は「男はつらいよ」。

対話でつながり、ともに成長する組織づくり

ホスピタリティ担当 副病院長・看護部長 山本 美津子

高度急性期医療を担う当院には、「治す医療」と「支える医療」を両立しながら、安全で質の高い医療を提供することが求められています。その実現に向けて、職員一人ひとりが大病院だからこそ得られる多様な学びや挑戦の機会を活かし、“なりたい自分”を思い描きながら主体的に学び、自らキャリアを切り拓く「キャリア・オーナーシップ」を発揮できるよう支援します。また、「マグネットホスピタル」の実現を目指し、患者さんやご家族から信頼され、職員にとっても働きがいのある病院づくりに取り組みます。対話を重ね、相互理解と信頼を深めながら、誇りとやりがいを持って成長し続ける魅力ある組織を目指します。



PROFILE

やまもとみつこ◎1992年 大阪府立公衆衛生専門学校卒業。2008年 新生児集中ケア認定看護師取得。2026年 副病院長・看護部長に就任。趣味はスポーツ観戦。

愛媛大学医学部附属病院 開院50周年

— 医療を創る、人を創る、愛媛を守る —



昭和51年の開院以来、当院は地域の皆様に支えられ、令和8年10月に開院50周年を迎えました。この節目に、患者サービス向上や最新医療を紹介する記念誌の発行など、次の50年につながる記念事業を実施しています。未来の愛媛の医療をともに創るため、温かいご支援をお願い申し上げます。

50周年記念
WEBサイト

編集後記

本号では、令和8年4月に発足した新執行部による、愛大病院の未来への思いを特集しました。それぞれの言葉から伝わるのは、地域医療を守り、より良い医療を届け続けたいという強い思いです。開院50周年の節目を越え、新たな一歩を踏み出した愛大病院。その歩みと挑戦を広く伝えることも、私たち広報の大切な役割です。本号が、目指す未来を皆さまと共有する機会となれば幸いです。

広報委員会委員長
城戸輝仁

愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111 (代)

愛媛大学医学部
附属病院
ホームページ医学部及び
附属病院
Instagram愛媛大学大学院
医学系研究科・医学部
ホームページ

INVITATION

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL 愛媛大学医学部附属病院 広報誌

81

2026 SUMMER

附属病院新体制特集
—— 附属病院の未来展望

CONTENTS

- 01 | 愛大病院の未来を拓き、地域医療を守る
- 02 | 夢ある未来の医療を支える基盤を
- 03 | 救急と危機対応を強化し、地域の安心を守る
- 04 | バイオデータバンクの構築とリカレント教育の推進
- 05 | 人が力を発揮できる体制で、診療の質を高める
- 06 | 安全文化を育て、信頼される病院へ
- 07 | 対話でつながり、ともに成長する組織づくり

愛大病院の未来を拓き、地域医療を守る

病院長 羽藤 直人

地域医療を守る大学病院として

少子高齢化や医師偏在、施設・医療機器の老朽化、物価・人件費の高騰など、大学病院を取り巻く環境は厳しさを増しています。こうした中、新たな地域医療構想において、大学病院に求められる「医師の派遣機能」「医育機能」「広域での診療機能」の3つの機能を、高い次元で調和させたいと考えています。また、開院50周年の節目を迎え、愛媛に「あってよかった」から「なくてはならない」大学病院へと、さらなる発展を目指します。愛媛県民医療の最後の砦として、高度で安全な医療を安定して提供し続けることが、私たちの使命です。

人が輝く病院へ

持続可能な大学病院への道標として、「働きがいと誇りを実感できる職場づくり」「次世代の医療人育成」「医学研究」に取り組める環境整備を掲げています。また、医療DXや生成AIの活用、タスクシフト・シェアを進め、診療の効率化と教職員の負担軽減、待遇改善を図ります。更に、先端医療創生センターやバイオバンク、愛媛リアルワールドデータを活用することで臨床研究体制を強化し、診療・教育・研究のバランスが取れた、多くの医療者が働きたいと思える病院を目指します。

未来を拓く持続可能な病院づくり

地域医療を守り続けるためには、安定した経営基盤と将来を見据えた病院再開発が不可欠です。診療実績の可視化、コストの適正化、地域医療機関との連携強化、最先端・高難度医療の導入を進めます。愛媛県、医師会、自治体、地域の医療機関と責任ある協議を重ね、少子高齢社会の地域医療を支える「人材と知の拠点」として、愛大病院の未来を切り拓いてまいります。ご指導、ご支援よろしく願いいたします。



PROFILE

はとうなおひと◎愛媛県出身、1989年愛媛大学医学部卒業。1999～2001年スタンフォード大学留学、2014年愛媛大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授、2023年愛媛大学大学院医学系研究科長、2026年4月から附属病院長に就任。専門分野は神経耳科学。好きな言葉は泰然自若。趣味はゴルフとセーリング。

夢ある未来の医療を支える基盤を

経営・財務担当 総括副病院長 雑賀 隆史

質の高い医療を安定して提供しながら、これからの高度医療を展開するためには、診療・教育・研究を支える強固な経営基盤が欠かせません。2026年度診療報酬改定を的確に捉え、各診療科との定期的な懇談を通じて、疾患別・治療別の実績や収益構造を可視化し、経営改善します。また、DPC係数や高難度医療における本院の強みをさらに向上させるとともに、診療科の成果や貢献が適切に反映されるインセンティブ制度の再構築を進めます。教職員が誇りを持って力を発揮できる環境を整えることで、次世代の医療への道のりを築いていく大学病院を目指します。



PROFILE

さいかたかし◎1988年岡山大学医学部卒業。2016年泌尿器科学教授、2021年副病院長就任。専門は尿路性器腫瘍学、腹腔鏡手術。好きな言葉は“出会えて良かった”。

救急と危機対応を強化し、地域の安心を守る

救急・危機対策担当 副病院長 佐藤 格夫

大規模災害に備え、BCP（Business Continuity Plan）や各種マニュアルの見直し、実践的な訓練を重ねるとともに、サイバー攻撃発生時の行動手順を整備し、事業継続体制を強化します。また、救急医療体制の充実に向け、これまで以上に救急患者の受け入れ体制を増強していきます。院内では、入院患者の急変兆候をより早期に把握するため、NEWSスコアなどを活用し、急変時の対応体制を一層充実させます。さらに、限られた病床を有効に活用するため、適正かつ効率的な病床運用に努めます。これらの取組を通じて、地域住民や愛媛県民にとって、より安心と信頼を感じていただける病院を目指します。



PROFILE

さとうのりお◎1995年本学医学部卒業。2017年救急航空医療学教授、2019年救急医学教授、2026年副病院長就任。専門は救急医学・集中治療。趣味は若者への無償の愛。

バイオデータバンクの構築とリカレント教育の推進

教育・研究担当 副病院長 高田 康徳

現在、医学部では臨床医の研究エフォートや競争的研究資金獲得力の低下に伴う研究環境の悪化が課題となっています。一方で、日常臨床で生じた疑問を研究に発展させることができるのは臨床医の強みです。そこで、学内で蓄積された約2700の保存検体由来オミックスデータと臨床情報を統合した「医学部バイオデータバンク」を構築し、リサーチマインドを持つ臨床医が研究に取り組みやすい環境を整備します。更に、基礎と臨床のトランスレーショナル研究につなげ、質の高い研究成果の創出と研究資金獲得の好循環の実現に努めます。また、多職種でリカレント教育を推進し、医療の質向上とタスクシフト・タスクシェアによる安定した病院運営につなげていきます。



PROFILE

たかたやすのり◎1994年本学医学部卒業。2025年検査部長、糖尿病内科・臨床検査医学教授。2026年副病院長就任。専門は糖尿病、動脈硬化。趣味はアウトドア全般。

人が力を発揮できる体制で、診療の質を高める

総務・診療担当 副病院長 押切 太郎

質の高い診療を持続するためには、必要な人材を確保し、一人ひとりが能力を適切に評価され十分に発揮できる体制を整えることが重要です。新たな診療報酬制度に的確に対応し、地域医療体制確保加算や外科医療確保特別加算を活用した個人インセンティブの創設を検討します。同時に、交代勤務やチーム制、タスクシフトを進め、医師をはじめとする教職員の負担軽減と安心して働き続けられる環境づくりにつなげます。また、診療報酬請求の精度向上とレセプト査定率の低減にも取り組みます。人材と組織の力を生かし、患者さん、医療従事者双方によりよい医療環境を整え、良質な医療を安定して届けられる病院を目指します。



PROFILE

おしきたろう◎1995年北海道大学医学部卒業。2023年消化器・腫瘍外科学教授、2026年副病院長就任。専門は食道腫瘍学、ロボット支援手術。趣味はテニス、ゴルフ。